

今、社会は



法学部長

ながい ながい
永井 和之 かずゆき

るのかわからないものが多いという。

最近、企業で活躍されておられる人の話を伺う機会が多い。その中では自然と大学に対する注文も多くなる。とりわけ、大学における教育の効果があがっているのかどうかということに関して、疑問を提起されると、内心忸怩たるものを感じざるをえない。とりわけ、昭和39年に中央大学法学部に入学して以来、学部助手から助教、そして教授と、まさに中央大学法学部に37年以上を過してきている者としては、我が身を批判されているという感じがするのである。

社会の人からの代表的な疑問には、自分でしっかりと一つの話が出来ない学生が多いという疑問(非難?)がある。自分の頭で考えて、論理的に、自分の言葉で意思を伝達する、意見を表明するということが出来ないというものである。例えば、小さなレポートを提出させるということになって、とても読めない、何をいわんとしてい

そのような状況の中で、理工学部の修士論文を書いてきた人や、文学部などで卒業論文を書いてきた者が評価をされている。法学部の学生は本来ならば、まさにそのような能力を身につけるべく教育を受けているはずなのであるが、概して、社会では、その点に関しては、私の期待ほどの評価とはなっていないようである。卒業される際に、はなむけの言葉に代えてこのようなことを述べることは大変辛いものがある。しかし、社会に出ていくということは、学生という同質の社会から、多様な人と人との意思の疎通をはからなければならぬ場に出るといふことである。どうか卒業生の諸君は、このことをしっかりと受け止めて欲しい。そして、すばらしい出会いに恵まれることを願っている。

そして、大学に残っている私としては、あのような社会の評価を変えるべく、より一層の努力を諸君に誓い、今後諸君からも厳しい叱責を受けないようにしたいと考えている。

価値判断を大切に



経済学部長

いちい いちい
一井 昭 あきら

中央大学を卒業される皆さんに、心からお祝い申し上げます。

大学卒業とは、自立した生活の出發を意味します。「自立した個人」、何とも難しい課題ですが、魅力ある出發だと感じませんか。

中央大学で皆さんが培われた専門的な経済領域の分析能力を基礎としながらも、進路に応じた精細な力量を新しく身につけ、よってもって広く社会的な貢献を果たされることが期待されています。

二十一世紀を迎えた現実の社会は、核兵器廃絶や地球環境問題に示される人類の共通課題に対しても、利害を異にする先進国と発展途上国の対立があり、そのことが複数のアプローチに基づく国連決議や多国間国際協定で明らかです。「天下国家を論じない」学生が日本の大学を占め

て久しいですが、NGO、NPOなどの活動は高まりを示しています。日本経済は依然として低迷を続けており、マスコミは先進国のなかで政策判断を誤っている唯一の国とも報じています。そのなかで、真の経済学への模索が求められてもいます。大学生活をとおして、皆さんは親友、なかには生涯の友を得られたことでしょう。二十一世紀の社会は、自然と人間との、世界の人びとの、「共生」がキーワードの一つとなることは確実です。皆さんが、大学での対等・平等のよき友人関係を、もう少し広い社会規模にまで拡大されるときにも、さらに進路の違いを超えたしかしその現場に連なるという換言すれば優先順位についての「価値判断を大切に」した政策立案や政策判断能力をいっそう錬磨されるように望んでいます。

人生の船出にあたって



商学部長

きたむら けいこ
北村 敬子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

多くの方々はこれまでの長かった学業中心の生活に別れを告げて、いよいよ社会人としての自覚と責任を付与された「人生の荒海」に、その第一歩を踏み込まれることになるわけですね。おそらく皆さんは、今、将来への期待と不安の入り交じった気持ちで、落ち着かない毎日を過ごしていると思います。その荒海での道しるべとなるのが、今までの学生生活で培った人間関係だったり、問題解決方法だと思います。

今までは、親、教職員あるいは先輩に指導や助言をしてもらい、後は自分がそれに従ってゆけばよい生活でした。しかしこれからは、何をどのようにするべきか、について自分自身が判断しなければならぬケースが増えてくると思われまふ。そのために、常に新たな知識を身につけることも必要でしょう。また、悩み、苦しみ、自分が正しいと判断した方向に物事を

運ぶ決意が必要となります。しかもその判断に基づいてことを運ぼうとしても、組織の中ではなかなか自分の思い通りにはなりません。

特に、これからわれわれが迎えるようとしていく混沌とした二十一世紀の社会においては、なおさらです。昨日まで不可能だったことが、いつの間にか可能になってしまうような世の中です。このような社会において新しい時代を築いていくのが、皆さん方なのです。そのこれからの社会を創ってゆく責任者の一人として、自分は今、何を考えているか、何のために生きているのかと常に自分自身を客観的に見つめることが大切なのではないでしょうか。

商学部は、二〇〇九年に百周年を迎えます。現在それに向けて商学部同窓会を創設準備しています。母校が荒海の航海の中で、時には新たな知識を吸収する場として、そして時には新たな人間関係を築く場となるような、皆さんを導く灯台として、いつも応援したいと思えます。

どうぞ、胸を張って自分自身の力で漕ぎ出していただきたいと思います。

二十一世紀に活躍する



理工学部長

おおく ぼ のぶゆき
大久保 信行

中央大学を巣立ち、めだたく卒業の時を迎えた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

新世紀の「科学技術立国・日本」を担う若い技術者・研究者として、皆さんがこれまで大学で培った知的研鑽の成果を存分に駆使して、実社会で活躍されることを願っております。

二十世紀では高度な科学技術の恩恵を享受できた反面、経済成長至上主義がはびこり、高度成長を押し進めた経済システムが地球環境の破壊を生み出しました。二十一世紀のキーワードの一つは環境型経済社会への転換であり、生物の一員としての人間、地球システムの中の人間という視点を携って、発展と共生の両立した人間の未来を目指さなければなりません。二十一世紀の環境創造に向けて、すでに情報通信、エネルギー、バイオテクノロジーなどあらゆる分野で新たな

挑戦がスタートしています。

社会の変化とスピードの速い時代、時代を予感するセンスと広い視野、競争に打ち勝つ体力が求められるでしょう。学歴ではなく個人の真の実力が問われます。平和や人権、環境といった国際公益に関心をもち、国境を越えたネットワーク、慣例にとらわれないしなやかさ、素早い行動力、科学技術に携わるものとしての倫理観、優れた語学力を持つソフト型人材が必要とされています。一人一人が自発的な意思と情熱を持って国際社会に貢献できるよう、常に時代の変化を見極め、世界に通じる能力を磨き続けて欲しいものです。

二十一世紀、皆さんの未来は無限の可能性が開けています。日本から世界へ、未来世代へと意識を広げ、力強く社会への第一歩を踏み出して下さい。

卒業おめでとう

モラトリアム人間から訣別を！



文学部長

林 茂樹
はやし しげじゅ

「ご卒業おめでとうございます。多くの諸君は、大学を終えて新しい環境に新たな一歩を踏み込む期待に燃えていることでしょう。」

世の中がIT革命といわれている真つ只中であって、諸君のなかにはその方向性を見極めながら、自分の進むべき道を選択し、自分にその門口に立つことができたと思自負している人もいます。或いは、自己の志望とは異なつた道に進まざるを得ない人、さらには就職が思うようにいかず、止むなくフリーターとしてしばらくは過ごそうという人も少なからずいることでしょう。

大学とは高度な学問を研究教育する場です。しかし、大学大衆化の中であって、その理念は大きく歪みつつあります。諸君は振り返つてみて大学時代に一定の目的に情熱と努力を傾注したと自負しています。

か。周囲に流されて、気がついてみたら卒業することになつたということはないことを祈っています。

日常の授業や多くの学生諸君を観るにつけ、「楽」を求め、目的意識をもつて日々の生活に努力する諸君の姿が必ずしも多くないことを危惧するのは、年寄りの勝手な言い分でしょうか。

確かに、大学の権威が失墜した点も無いわけではありません。かつてのように、厳しい修練の末、一人前の知識人として自己確立するといふ生き方の諸君は、一握りに過ぎないかもしれません。しかし、わが大学を卒業する諸君だけでも、今後モラトリアム人間から訣別してほしいものです。今一度、諸君の大学生活をジックリ振り返る時間を作つてほしいと思つています。

飛躍を積み重ねて個性的な人生を開拓してください



総合政策学部長

河野 光雄
こうの みつお

卒業おめでとうございます。人生にはいくつかの不連続な飛躍があります。大学の卒業は多くの人にとってその一つではないでしょうか。家族をはじめ先生や友人によつて支えられてきた生活から、自立が第一義の生活へと変わるからです。そしてこの自立という飛躍を支えているのは紛れもなく学び身につけた専門性です。しかしそれは簡単に手に入るものではなく、いつでも学べるという安易さとの闘い、いつぞや克服したか得たものだけに違いありません。これからは学ぶ時間を確保する厳しさとの闘いを強いられ、いずれにしろ学ぶことは易しいことではありませんが、新しい飛躍を準備するものでもあるのです。情報化の進展で社会が激しく変容する時代にあつて、経営理念が変化し、雇用関係に変化する兆しが見えはじめ、労

働市場の流動化が進もうとしているなかで、個人は生涯を通して自己を活かす職場を求め続けることになるでしょう。仕事を通して自己実現を設計する生き方へと、大きく舵が切られたのではないのでしょうか。旧世紀の人生はほんのいくつかの飛躍に彩られるだけでしたが、新世紀の人生は多くの飛躍を積み重ねて個性を開花させるものとなるでしょう。その飛躍は学習の集積点において起こると言えます。学ぶことが飛躍の梃子になっているのです。飛躍を拾い上げることができるといふことは、学習にかかっているといふべきかもしれません。飛躍はいつも向こうからやってくるばかりではなく、手の届くところに隠れているかもしれないからです。学ぶことは生きる力の源泉であり、生涯にわたつて続く格闘でもあることを心に深く銘じ、新しい出会いと発見に満ちあふれた人生を力強く生き抜いて行かれることを祈っています。